

## 第 4 回「芸備線 庄原市・新見市エリアの利用促進等に関する 検討会議」の開催結果について

### 1 要旨

第 4 回「芸備線 庄原市・新見市エリアの利用促進等に関する検討会議」の開催結果について報告する。

### 2 現状・背景

J R 西日本から、芸備線の庄原市から新見市へかけての区域について、地域公共交通計画策定・見直しに向けた検討の場の設定を求める申入れを受け、次のとおり開催した。

- 【開催日程】 第 1 回 令和 3 年 8 月 5 日  
 第 2 回 令和 3 年 10 月 8 日  
 第 3 回 令和 4 年 2 月 7 日  
 第 4 回 令和 4 年 5 月 11 日（今回）

### 3 概要

#### (1) 対象者

検討会議参加者：広島県、庄原市、岡山県、新見市、J R 西日本(広島支社・岡山支社)

#### (2) 事業内容（実施内容）

各構成員から、令和 3 年度の芸備線の利用促進事業の評価・今後の取組の方向性について発表、意見交換を実施した。

構成員	各団体の主な意見
広島県	<ul style="list-style-type: none"> <li>庄原市では、インバウンドなどの観光誘客に向け、これまでにない新たな観光プロダクトの開発に着手することから、県としても、効果的な連動が図られるような移動実態の把握・分析を行うことを検討していく。</li> <li>市外からの誘客、関係人口の誘引などを図ることで、将来的な日常利用への定着の可能性を見極めていく段階にあることから、各利用促進施策は、コロナ禍後を踏まえた長期的な展望に立って取り組むべきと考えている。</li> </ul>
庄原市	<ul style="list-style-type: none"> <li>年度中途からの実施であり、また、感染症の影響が断続的に続いたため、やむなく中止した事業や十分な成果に結びつかない取組もあった。</li> <li>今後、市独自のキャッシュレス決済カードによる乗車券購入の体制整備を行い、日常利用の増加を図るほか、インバウンドの回復も見据えた全国・海外からの観光客誘引に向けた観光プロダクトの開発等、引き続き利用促進に取り組むことから、取組の成果を見極めていく必要がある。</li> </ul>
岡山県	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通体系の見直しや各種啓発活動により、地域住民が公共交通を使いたいという機運の醸成が図られたことや、地域外にも芸備線に対する関心を持ってもらえたことは大変重要であり、今後の地域公共交通の更なる活性化につながるものと考えている。</li> <li>引き続き、新見市や J R とも連携を図りながら、芸備線の利用促進に取り組んでいきたい。</li> </ul>
新見市	<ul style="list-style-type: none"> <li>各公共交通の利用者が増加したほか、各啓発活動を行ったことで、市民や市外の興味・関心を高め、利用促進はもとより、意識の醸成にも一定の効果があったと評価している。</li> <li>今後、協議会の活動を強化するとともに、ICOCA を活用した地域活性化プロジェクト等、利用促進に関する取組の充実を図るなど、市民や関係者と連携し、利便性の向上や持続可能な交通体系を目指すとともに、引き続き鉄道の利用促進に取り組む。</li> </ul>
JR 広島支社	<ul style="list-style-type: none"> <li>令和 4 年度は、庄原市内の地域 IC の活用やバスとの連携などに取り組んでいくよう考えており、一部施策は既にも実施できる状況にある。</li> <li>収支率の情報開示を行ったが、ローカル線に関する課題認識を地域と共有・議論していくことが重要と考えており、この利用促進を通じて利用状況や移動実態など芸備線を取り巻く環境をこうして議論していることは、非常に貴重な場であると感じていることから、引き続き地域の活性化に向け、連携を深めて取組を進めていきたい。</li> </ul>

JR 岡山支社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者の多くは地域内の移動となっており、大量輸送機関としての鉄道の特性は発揮できておらず、鉄道は地域のお役には立っていないという状況である。</li> <li>・ 検討会議での成果と課題、地域内の実情などを踏まえた上で、利用促進ということにとどまらず、特定の前提を置かないうえで、将来の地域公共交通の姿についてもぜひ速やかに議論を開始したいと考えている。</li> </ul>
---------	---

(参考) 各構成員による令和3年度を取組の総括(発表順)

構成員	発表内容(意識)	
	主な取組・振り返り	まとめ・今後の取組の方向性
広島県 庄原市 (合同)	<p><b>【広島県】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校生通学モニター調査 ⇒ モニター22名中2名が通学手段を鉄道に転換。</li> <li>・ データ分析による移動実態の把握・分析 ⇒ 移動手段の転換を検討する上で必要なデータの取得。</li> </ul> <p><b>【庄原市】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市職員による「芸備線利用促進デー」 ⇒ 通勤利用時における課題の把握。</li> <li>・ 官民による利用促進協議会 ⇒ 地元住民・団体等が参画した利用促進策を協議・検討する組織の結成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常利用への転換を図る行動変容につなげていくためには、主たる利用者である住民の納得感が必要である。</li> <li>・ そのためには、住民主体の議論やそれを踏まえた社会実験などを重ねていく必要がある。</li> <li>・ 観光利用の促進において、新しい取組の成果を見極める必要がある。</li> <li>・ 以下の方向性に基づき、引き続き利用促進に取り組む。</li> </ul> <p><b>【広島県】</b> 芸備線を利用していない人を芸備線利用者に転換していくよう、利用促進やその取組支援に取り組む。</p> <p><b>【庄原市】</b> 「3つの柱(生活交通としての利用促進、市外からの乗客の呼び込み、利用促進への市民参画)」による利用客の増加に資する取組を推進する。</p>
JR 広島支社	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 交流人口拡大を狙った利用促進 ⇒ イベントや鉄道乗継、ラッピング列車などへの利用集中により、期間平均の土休日で対前年2.3倍の利用増加。</li> <li>・ 生活利用に係る利用促進 ⇒ 土休日で対前年ほぼ横ばい。平日では15%減少。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き利用促進に向けた取組を順次実施。 <ol style="list-style-type: none"> <li>① 更なる利便性向上の模索(路線バスと鉄道との連携による「乗りたい時間に乗れる」移動ニーズの実現等)</li> <li>② 広域交流に係る取組(インバウンド受け入れ環境の緩和を見据えた移動サービス提供や魅力発信の準備等)</li> <li>③ 移動実態の把握・分析等</li> </ol> </li> </ul>

<p>岡山県 新見市 JR岡山支社 (合同)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 予約型デマンドタクシーの導入, 市営バス時刻変更によるアクセス改善 ⇒ 地域内の交通体系の見直しにより, 自家用車から公共交通への転換が進んでいる。</li> <li>• 鉄道利用促進協議会を設立し, 「駅カード」の配布やフォトコンテスト等の実施 ⇒ 芸備線に対する地域内外の関心が高まっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 連携した取組により, 公共交通の利便性の向上や, 地域における公共交通利用に対する機運醸成, 地域外の関心の高まりなど着実に効果が出ている。</li> <li>• これまでの取組成果も踏まえ, 引き続き利用促進に取り組み, 利用者増を目指す。</li> </ul>
--	--	---

**(3) スケジュール**

次回検討会において, 利用促進以外の内容を検討会議で議論していくかについて, 幹事会で検討していく。(開催時期未定)

**(4) 予算 (単県)**

27,000 千円

**(5) 今後の対応**

芸備線を利用していない人を芸備線利用者に転換していくよう, 県事業としての利用促進や沿線対策協議会 (芸備線・福塩線) の取組支援に取り組む。